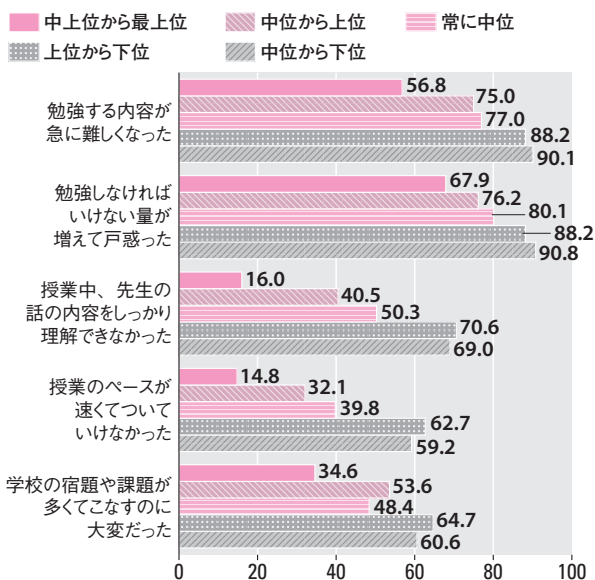


「中学1年生の学習と生活に関する調査」結果から 学力が伸びた生徒、伸び悩んだ生徒の違いとは

中学入学後、小学校との環境の違いを乗り越えて伸びていく生徒と環境の違いを感じて伸び悩む生徒にはどのような特徴が見られるのか。調査の中でも特に勉強面に焦点を当て、中学入学後に直面した困難、またその克服方法から、両者の特徴を分析する。

1 伸び悩んだ生徒は、授業内容をよく理解できず 授業の速さに対応できていない

□ 直面した困難(勉強内容・勉強量・授業レベル)



注1) 数値は「とても感じた」+「やや感じた」の%
出典 / Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

勉強内容や授業に関する「中学校1年生で直面した困難」について見ると、成績が伸びた生徒と伸び悩んだ生徒では、特に、内容理解や授業のペースの感じ方で差があることが明らかになった。

集団指導の中でいかに個にも応じた指導を行っていくか。非常に難しいが、改めてその必要性が見て取れる。

「中学1年生の学習と生活に関する調査」概要

今回は、特に生徒の学力変化に着目しデータを加工・分析している。成績に関して尋ねた項目(「5」が上の方、「4」が真ん中より上の方、「3」が真ん中くらい、「2」が真ん中より下の方、「1」が下の方)を活用し、生徒を分類。中学1年生1学期の成績から1年生終了時まで、中位から上位に変動した生徒を「伸びた生徒」、上位・中位から下位に落ち込んだ生徒を「伸び悩んだ生徒」として、その特徴を追いかけた。「真ん中より下の方・下の方」から「上の方・真ん中より上の方」に移動した生徒もいたが、サンプル数が少ないため今回の分析からは除外している。

成績の変動ごとにその構成比率を見てみると、成績が伸びた生徒、伸び悩んだ生徒はそれぞれ約2割、あまり変動しなかった生徒は約6割であった。

中学1年生1学期から1年生終了時までの成績変動		
伸びた生徒	中上位(真ん中より上の方)→最上位(上の方)	81人
	中位(真ん中くらい)→上位(上の方・真ん中より上の方)	84人
あまり変動しなかった生徒	中位(真ん中くらい)→中位(真ん中くらい)	517人
伸び悩んだ生徒	上位(上の方・真ん中より上の方)→下位(真ん中より下の方・下の方)	51人
	中位(真ん中くらい)→下位(真ん中より下の方・下の方)	142人

■ 調査主体 / Benesse教育研究開発センター

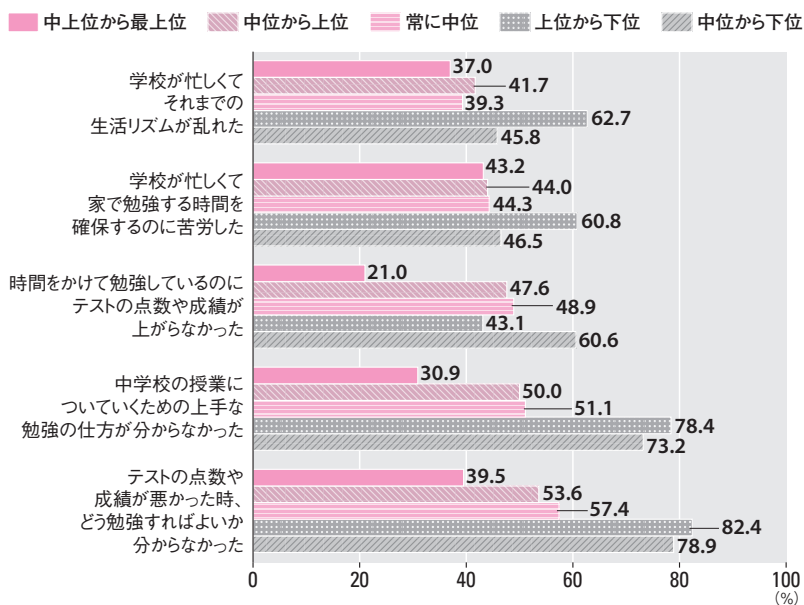
■ 調査期間 / 2012年7月

■ 調査対象・内容 / 全国約3000人の中学2年生とその保護者を対象に、中学校入学後のギャップや学習習慣、日々の過ごし方などについて尋ねた。有効回答数は875人

「自律的な学習者」を育てる学び方指導

2 伸び悩んだ層の中には生活リズムや勉強の仕方に問題を感じていた生徒が多い

□ 直面した困難(生活リズム・勉強の仕方)



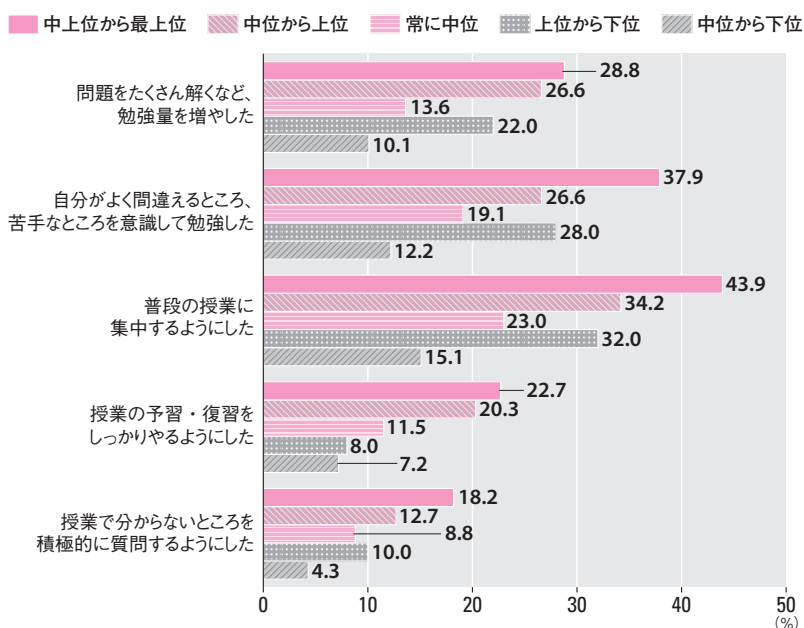
注1) 数値は「とても感じた」+「やや感じた」の%
出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

まず、生活リズムに関する困難について見ると、特に成績が落ち込んだ上位→下位の生徒において、生活リズムの乱れ、家庭での勉強時間の確保に苦しんだ様子がうかがえる。入学直後は、部活動だけでなく、中学校の学習にも慣れていく必要があるなど多くの環境適応を求められる。リズムをつかむことに苦しんでいる生徒については、適宜、教師や保護者がサポートしていきたい。

勉強の仕方については、「時間をかけて勉強しているのにテストの点数や成績が上がらなかった」や「中学校の授業についていくための上手な勉強の仕方が分からなかった」「テストの点数や成績が悪かった時、どう勉強すればよいか分からなかった」の項目で、伸びた生徒と伸び悩んだ生徒の差が見られた。

3 伸び悩んだ生徒にも努力は見られるが、改善につながっていない

□ 苦手克服のために行ったこと(基本的な取り組み)



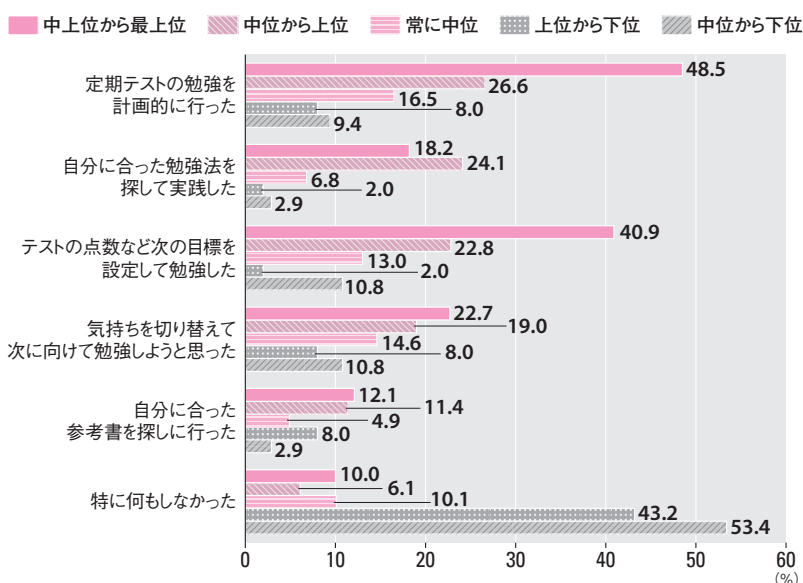
注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
注2) 「最も苦手になった科目」に対する克服方法を回答。「苦手が無い」と回答した生徒は集計から除外。
出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

「苦手克服のために行ったこと」を尋ねたところ、伸びた生徒ほど勉強量を増やし、苦手を意識した勉強に取り組み、普段の授業に集中するなど、基本的な学習習慣が定着している傾向が見られる。

一方、上位から下位に落ち込んだ生徒を抽出してみると、勉強量や苦手を意識した勉強、授業への集中といった項目について、中位から上位に成績が伸びた層と変わらない傾向が見られた。上位から下位へと大きく下降した生徒は、努力の方向性や仕方が分からず、課題改善うまく結び付けられていないのかもしれない。

4 伸びた生徒の4~5割は計画的な勉強や目標設定を行う一方、伸び悩んだ生徒の4~5割は何もしていない

□ 苦手克服のために行ったこと(勉強の仕方)



注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%

注2) 「最も苦手になった科目」に対する克服方法を回答。「苦手がない」と回答した生徒は集計から除外。

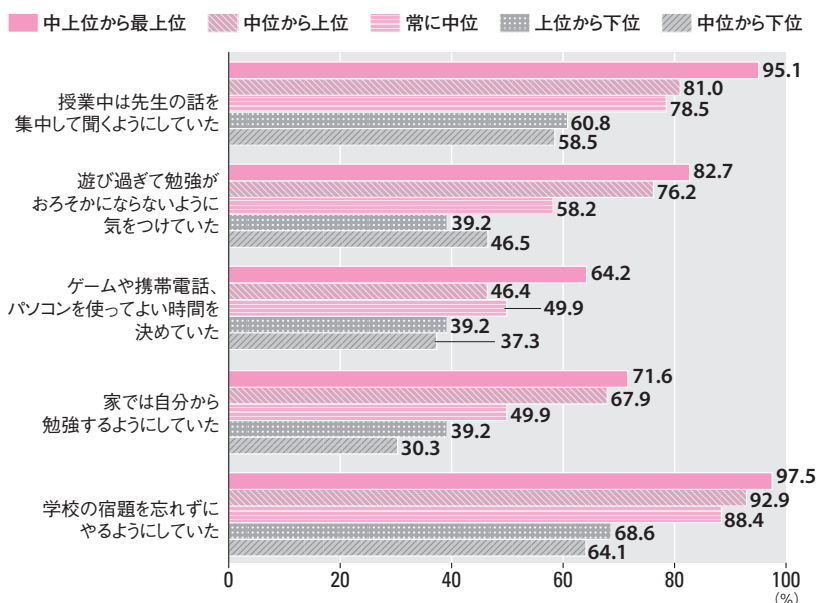
出典／Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

勉強の仕方に関して苦手克服のために行ったことを見ると、中上位から上位へ成績が伸びた生徒は「定期テストの勉強を計画的に行った」「テストの点数など次の目標を設定して勉強した」といった工夫をしている様子が見える。また、伸びた生徒のうち2割程度は、自分に合った勉強法を探して実践するという努力もしているようだ。

一方、成績が伸び悩んだ生徒は、勉強の仕方について特に工夫が見られず、「特に何もしなかった」が4~5割と著しく高くなっている。

5 伸びた生徒は、ゲームや携帯電話などの遊びと、勉強との切り替えがうまく出来ている

□ 生徒の勉強に対する意識・遊びとの切り替え



注1) 数値は「できていた」+「まあできていた」の%

出典／Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)

勉強に対する意識や時間の使い方について見たところ、成績が伸びた生徒は伸び悩んだ生徒に比べ、「授業中は先生の話集中して聞くようにしていた」「遊び過ぎて勉強がおろそかにならないように気をつけていた」「ゲームや携帯電話、パソコンを使ってよい時間を決めていた」の比率が高く、遊びと勉強との切り替えをうまく行っている様子が見える。

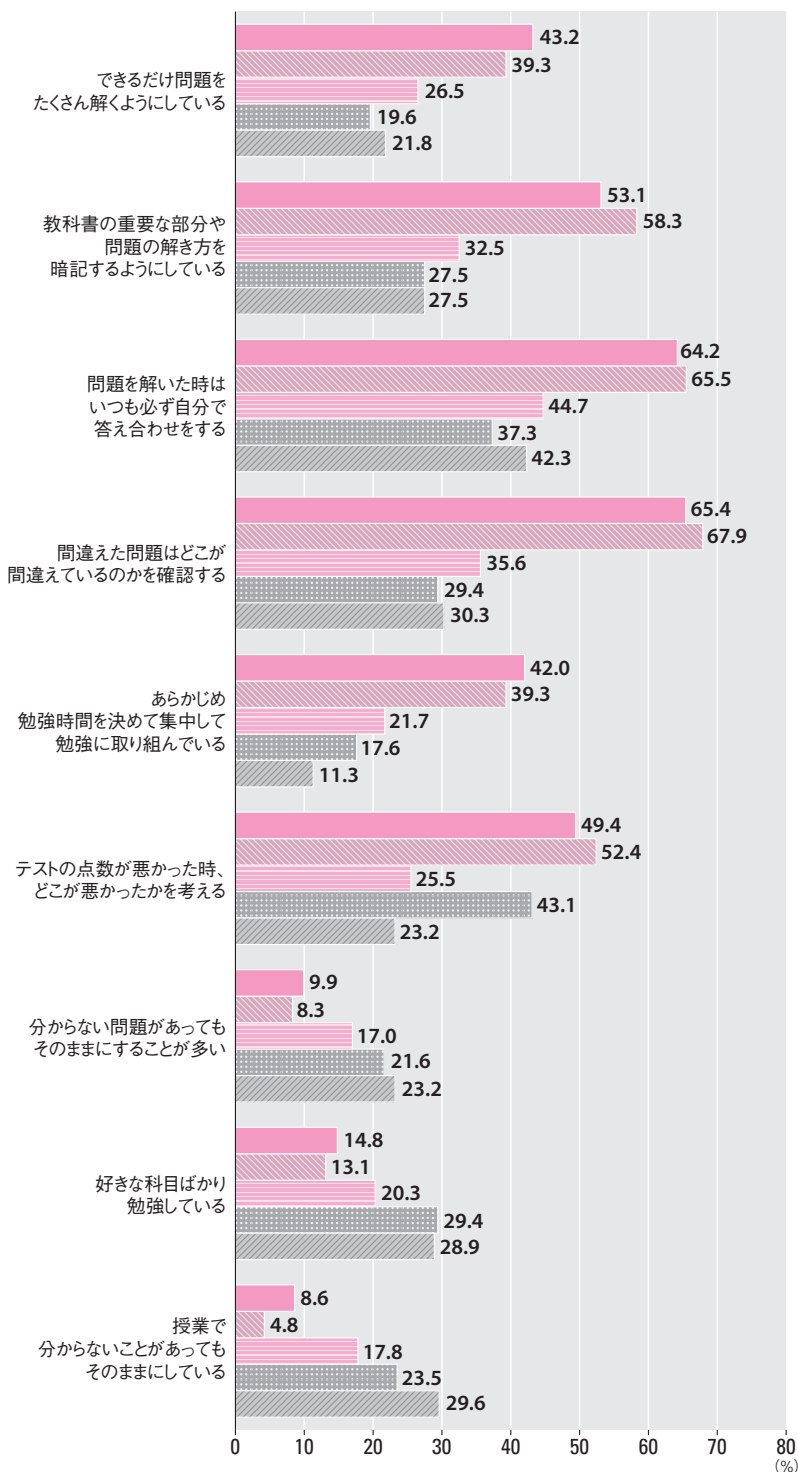
また、「家では自分から勉強するようにしていた」「学校の宿題を忘れずにやるようにしていた」などの質問項目でも違いが見られ、伸びた生徒は回答率が高かった。

「自律的な学習者」を育てる学び方指導

6 自己採点や間違いの確認など 基本的な見直し習慣が身に付いている生徒は、学力が伸びている

現在の勉強方法

■ 中上位から最上位 ■ 中位から上位 ■ 常に中位 ■ 上位から下位 ■ 中位から下位



現在の勉強方法に関する回答傾向を、成績が伸びた生徒と伸び悩んだ生徒で比較したところ、まず「できるだけ問題をたくさん解くようにしている」「教科書の重要な部分や問題の解き方を暗記するようにしている」といった基本的な勉強量で差が見られる。

また、勉強量だけでなく「問題を解いた時はいつも必ず自分で答え合わせをする」「間違えた問題はどこが間違えているのかを確認する」といった勉強の質に関する項目でも、伸びた生徒の回答比率が高くなっている。更に、「あらかじめ勉強時間を決めて集中して勉強に取り組んでいる」といった集中の工夫も、成績が伸びた生徒の勉強方法の特徴である。

一方、伸び悩んだ生徒は「分からない問題があってもそのままにすることが多い」「授業で分からないことがあってもそのままにしている」「好きな科目ばかり勉強している」といった項目で回答比率が高い。間違った問題、分からない問題からいかに学ぶかという、学習に対する姿勢や習慣が、1年生における成績の伸びの差になっているのだろう。

注1) 数値は「とてもそう」+「まあそう」の%
 出典／ Benesse教育研究開発センター「中学1年生の学習と生活に関する調査」(2012)